

平成29年度 第1回東遊園地再整備検討委員会

日時：平成30年1月31日（水）10：00～12：00

場所：神戸市役所2号館4階 401会議室

議事要旨

■社会実験の中間報告についての委員コメント

- 「賑わい創出実験」について、新たな参加者を増やすという目標に対して、結果が開催回数だけの記録報告となっているが、具体的にはどのような参加者を増やすことができたのか、こういった層に働きかけることができたのかを把握しなければならない。

■今後のマネジメントの方向性についての委員コメント

- 目指す方向性について、市民が参画するマネジメントという神戸独自の新しいマネジメントの在り方を目指すという方向性は良い。
- 市民を巻き込む仕組みと民間事業者、行政の役割分担が重要である。
- 事業スキームについては、南側園地で民間活力を導入し、収益を北側園地に投入して全体としてのバランスを図る仕組みも検討すべき。
- 事業スケジュールについては、事業者やイベント主催者の意向がハードに反映されるように、事業者公募と設計が並行するスケジュールとすべきである。
- 公園オープンまでの間、社会実験が行われない空白期間があるのは、プロモーションの視点からは望ましくない。継続的な取組、市民に対する情報発信が重要である。

■基本計画案について（拠点施設と広場の考え方）委員コメント

- 計画策定に向けた視点として、①地区スケールの視点（本庁舎2号館再整備、クロススクエアの南側、居留地（仲町通）との関係性を含めて検討する）、②都市スケールの視点（パークコネクトの実現、クロススクエア南側～東遊園地～国道2号線～みなとのもり公園～新港突堤開発～メリケンパークを公園でつなぐ。公園の中を歩いてメリケンパークまで行けるような都市）の2つの視点が重要である。
- 周辺にマンションが建設されているので、子育て世代から高齢者まで市民が気軽に利用できる公園を目指すべきである。東遊園地のキーワードは市民である。
- 社会実験の結果を計画に反映すべきである。（拠点施設の位置、設備（給排水電気ガス）、サービス動線等）
- 利用について、①子どもから高齢者までの個人的な利用の視点から、②イベントのサイズによる使い方の視点まで、多様なプログラムのスケールを踏まえた検証が必要である。
- ゾーニングについて、芝生広場・緑陰・エントランス部を一体的に利用できる工夫が必要。
- 再整備の中で、何を残し、何を变えるのかを明確にすべきである。